

Hiroshi Yamane ; OTR, PhD
Human Health Science
Graduate School of Medicine, Kyoto University

リハビリテーションと音楽

ひととおんがく
喜びを 歌い
怒りに 敲き
哀しみに 聴き
楽しみを 弾く
音とリズムと響きが
重なりあつて
高ぶる気持ちを静め
鬱ぐ気持ちを包み
ことばにならない思いを表し
想い 祈り 願いが
音と旋律にのり
ことばを超え
時空を超える

音楽の起源に
リハビリテーションの原点
がある

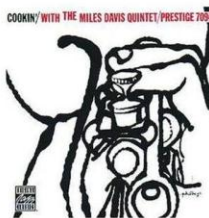
ひとの日々の暮らしのいとなみをもちいて心身の健康を取り戻す古代養生法。その原初的療法が、18・19世紀の道徳療法を起源に作業療法として開花し始めた。そして20世紀、2度の世界大戦を契機にその種は世界各地に広がり、それぞれの文化風土に応じて芽吹いていった。音楽はそうした養生法の中でも、特別な活動の一つであった。音楽療法は、音楽の要素の何をどのように使うかで、大きく異なる。まさに百花繚乱、玉石混合状態といってもよい。

リハビリテーション

生活機能に障害があっても、生きるために必要な活動をその人なりにできるよう援助する。治療医学との違いは、リハビリテーションニーズは対象者自身がどのように生きたいかにより決まり、効果はその人の motivation のありようによって大きく違う。

リハビリテーションの視点

-作業療法を通して-



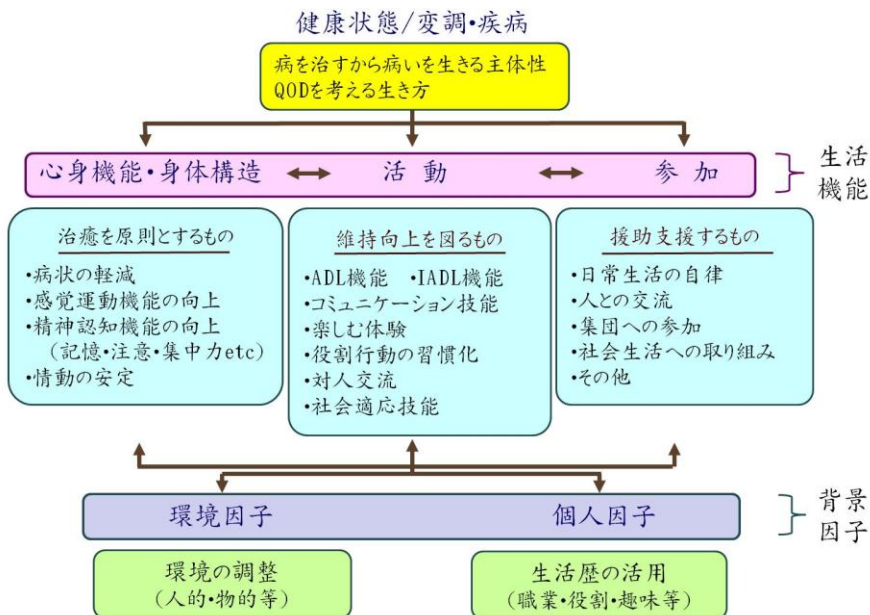
ひとにとって作業とは何か
健康のとらえ方
ストレングスという視座
リハビリ支援

ひとと作業 (real occupation)

ひとは生きるために作業し、
作業することで、楽しみ、困難や不安を乗り越える

とにかく生きる	日常の自立に必要な作業 (日常生活行為)
じぶんで生きる	生きるための作業 (採り、育て、料理、食べ、働く) 生き延びるための作業 (神頼みのトランス、協働)
うまく生きる	自分の考えや気持ちを表し伝える作業
よりよく生きる	豊かに生きるための作業 (遊ぶ・楽しむ)

健康の概念と作業をもちいる原則



回復状態に応じた作業療法の目的

だれに何を目的に
どのような作業を、いつ、どのように、もちいるか
ひとの集まり(集団力動)を利用するか、するならどのように

急性期

作業による病状の軽減で薬物の使用を最小限にし、
自己回復力を高める

回復期

具体的な活動を通して、生活技能の学習
生活の再建 自律と適応の援助

維持期

生活することがリハビリテーションになるよう支援
生活の質と社会参加の促進

緩和期

一人だが一人ではない
意味のある自己の確認に寄り添う

作業をもちいる療法と作業的存在としての人間

人間は生きるために様々な作業をする作業的存在
病気や心身の機能障害は、生活に必要な作業の障害として現れる

作業療法は
生活を構成するあらゆる作業を手段とし

生活機能(心身機能・構造, 活動と参加)をアセスメントし

心身機能の障害と作業の障害を軽減し
リカバリー支援と生活の再建を支援する

ストレンクスという視座

patient → person who lives with disease

cure → care → cope → cooperate

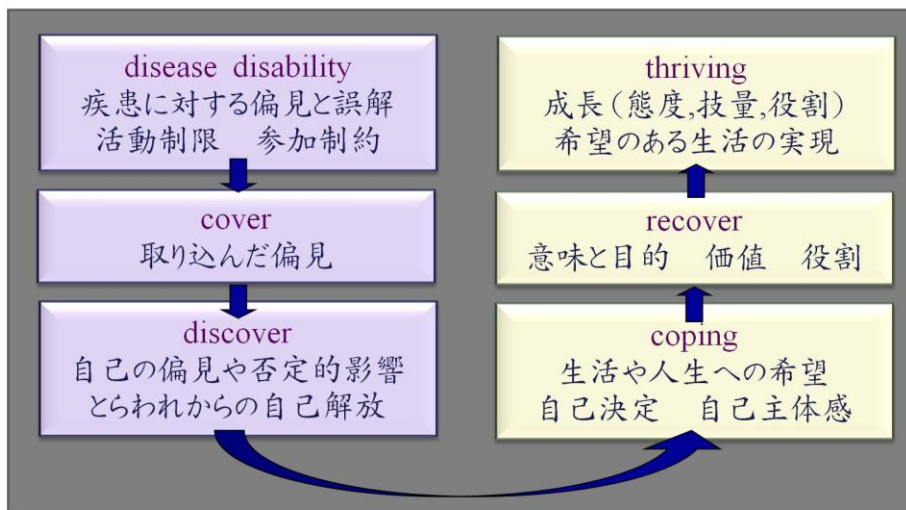
Weakness model

Strength model



リカバリー支援

当事者の体験から生まれた
病いを生きるともいえる概念

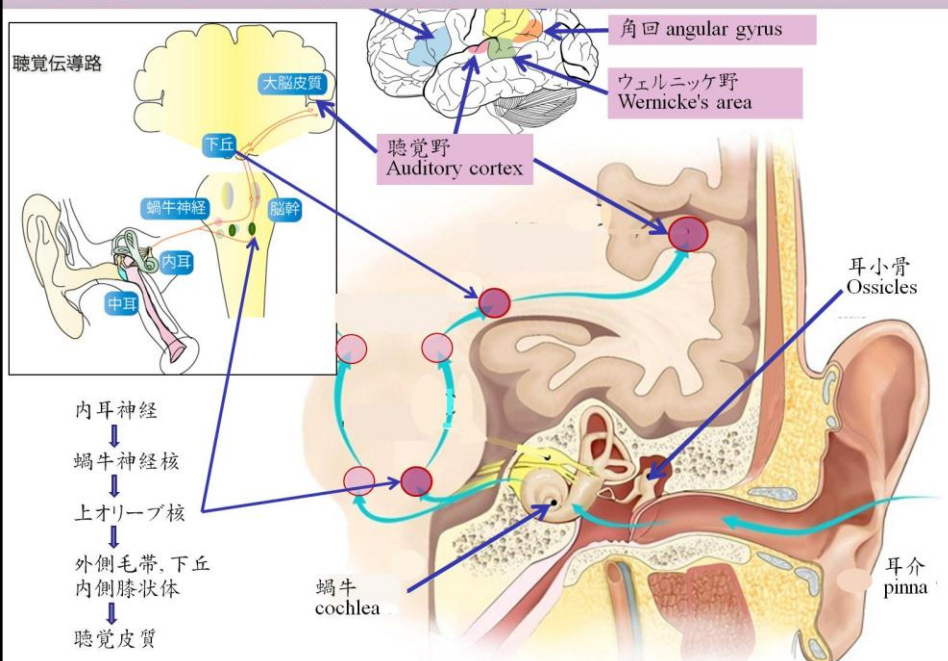


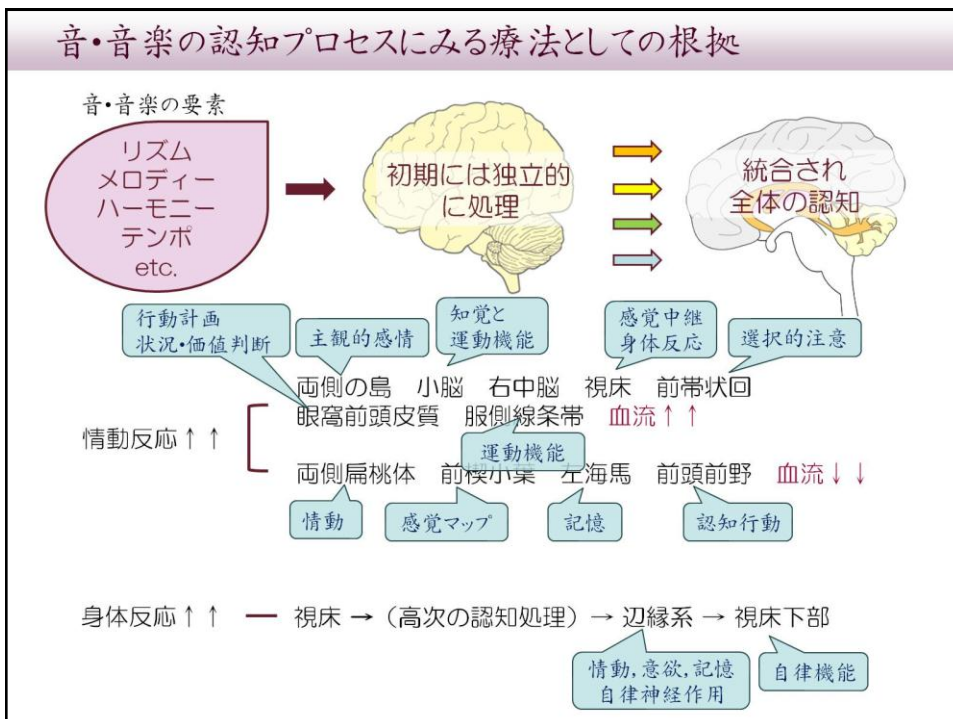
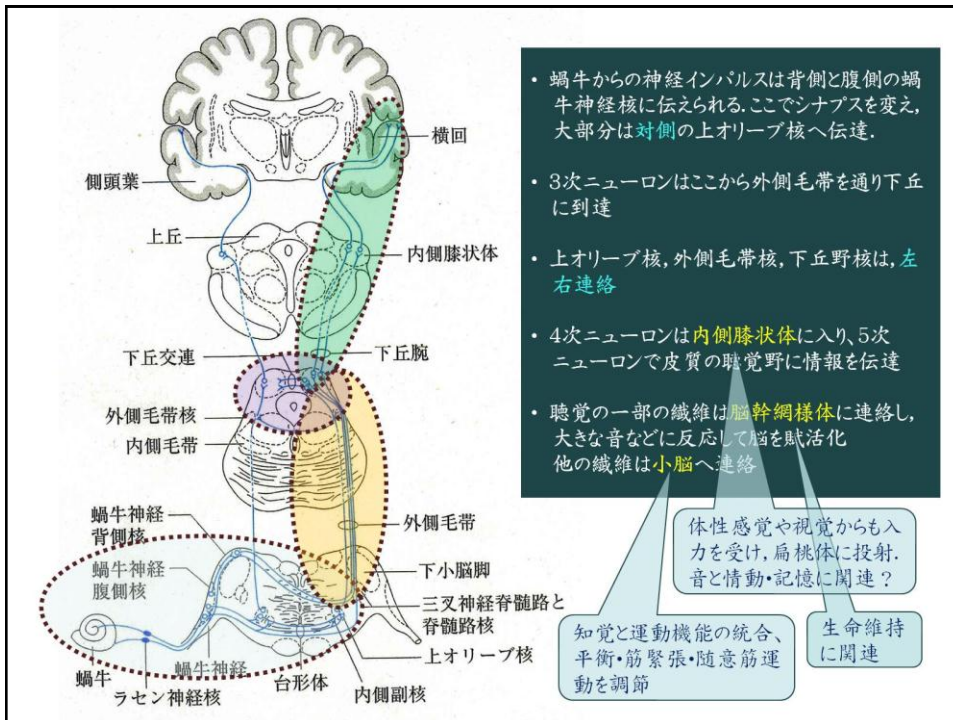
作業療法における音や音楽の利用と連携



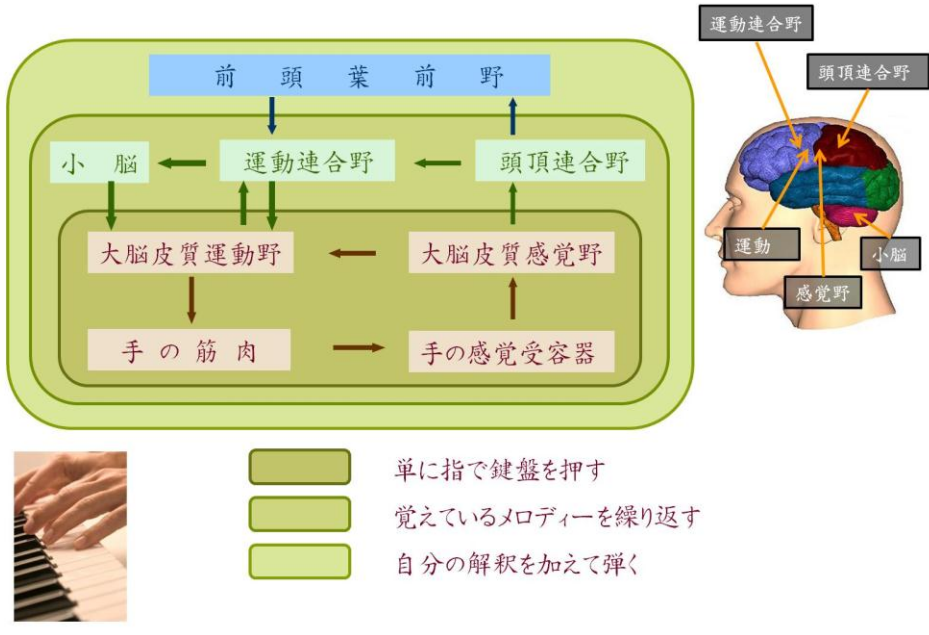
聴覚伝導路と音・音楽刺激
手と脳
音や音楽の要素
音楽の表現特性
音楽の利用と効用

聴覚伝導路から見る音・音楽情報の機能

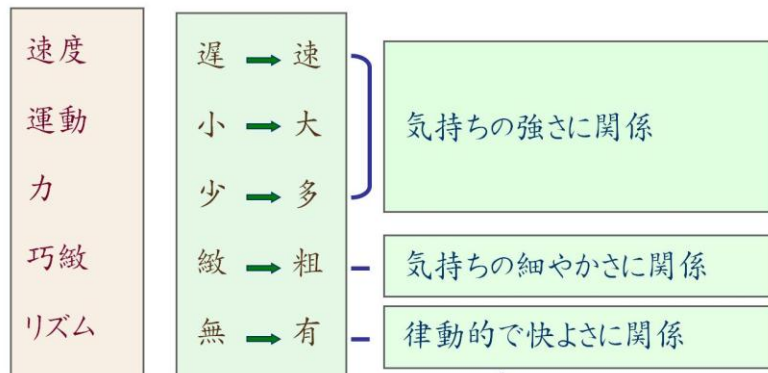




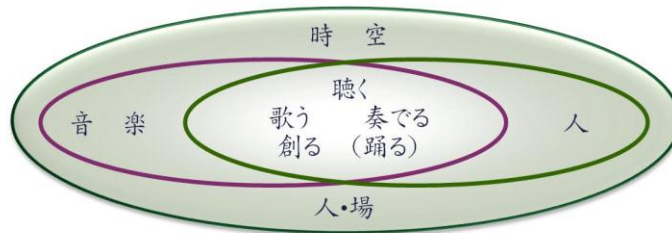
手と脳



手の機能との同一化

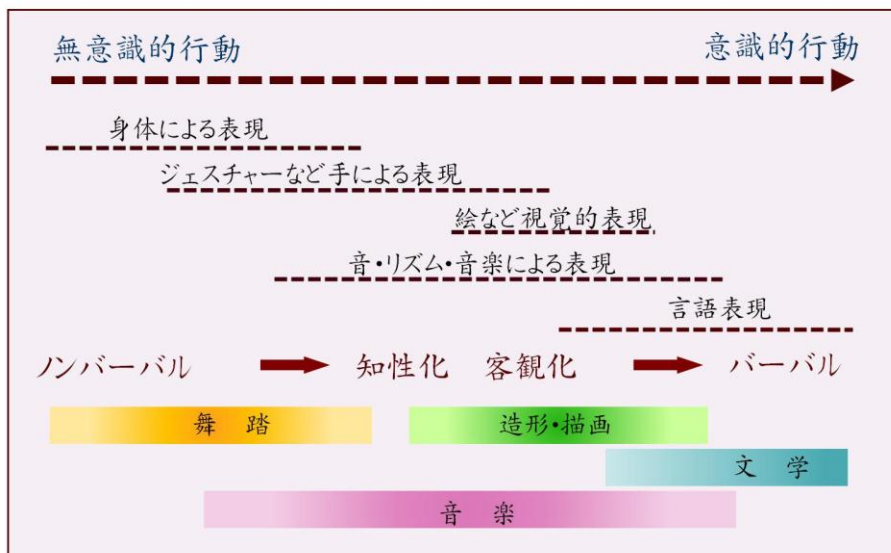


作業療法でもちいる音楽の要素

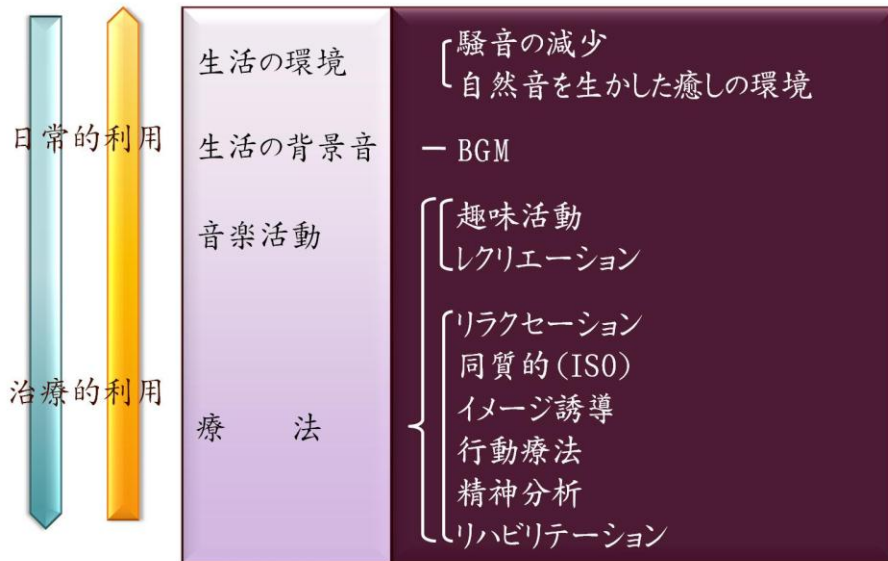


音楽	意味	生理的、個人的、社会的意味
活動要素	聴く	受動:認知 感受 投影……
	歌う	身体エネルギー :音声表現…
	奏でる	身体エネルギー :楽器操作…
	創る	自己表現:自己愛充足…
	(踊る)	誘発刺激:心身機能の賦活

表現様式の特性



音と音楽の利用



感覚運動機能面に対する利用

音声と発話に関する基本的機能

音声 構音 流暢性 リズム

自律神経系機能

交感神経 副交感神経

循環器・呼吸器系の機能

血圧の安定 全身持久力 呼吸機能 etc.

神経筋骨格と運動機能の維持・改善

関節可動域 姿勢保持 歩行 巧緻動作 協応動作 etc.



精神認知機能に対する利用

全般的精神機能

意識 見当識 意欲 etc.

個別的な精神機能

注意機能 情動のコントロール

統合的精神認知機能の改善

適度な鎮静と賦活

不安・痛み・疲労の軽減

情動の適応的発散(カタルシス 発散 気分転換)

自己愛・基本的欲求の充足 自我開放

回想

身体自我の強化 身体図式の形成

連携:治療・リハビリテーションと音楽

治療介入	身体機能面	i	動作・運動機能の介入手段	$\begin{bmatrix} \div \\ \leq \end{bmatrix}$
		ii	非言語機能の精神分析的利用	
	精神機能面	iii	全方位指向性の注意刺激の利用	
治療補完		iv	痛みの緩和, ストレスの緩和	
発達補助的介入		v	SI, ISO, ノードフ・ロビンズ etc.	
心理社会的介入		vi	社会的コミュニケーションの利用	

治療的介入に必要な音楽以外の基本的な知識・技術

- ・ 身体の解剖学的構造と感覚運動, 神経生理学的機能
- ・ 脳の解剖学的構造と神経生理学的機能, 高次脳機能
- ・ 疾患や障害および基本的治療とリハビリテーション技法
- ・ 治療援助コミュニケーション技能, グループダイナミクス etc.



連携への期待

いつも問われること

作業療法で音や音楽をもちいることと音楽療法の違い

作業療法でおこなっている音楽は音楽療法なのか？

どうして？

なぜこのような質問が？



ホームページを覗いてみよう
ZIZI-YAMA WORLD2をクリック

Ed. Hyman